

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名

福岡県立福岡視覚特別支援学校

【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	福岡県立福岡視覚特別支援学校 幼稚部年少 1名 小学部第1～6学年 19名 中学部第1～3学年 8名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育) ② 行事名 (校内持久走大会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックや日本トップレベルの選手の体験談を聞いたり、一緒に持久走に取り組んだりすることでオリンピックやパラリンピックに対する興味関心を高める。 ・体力づくりの一環として持久走に取り組ませ、忍耐力を育むとともに持久力の向上を図る。 ・個々の実態に応じた目標を設定し、目標達成のために継続して取り組むことの大切さを学ばせる。 ・最後まであきらめずに走りきることで、達成感を味わわせる。
5 取組内容	本校では、小学部・中学部ともに毎年体育（保健体育）の授業において、二学期後半から三学期前半にかけて体力、持久力の向上をめざし持久走に取り組んでいる。 今年度も11月後半より体育（保健体育）の授業において、小学部は15分間走、中学部は20分間走に取り組んできた。その成果の発表の場として校内持久走大会を計画し、トヨタ自動車九州陸上競技部（森下広一監督、他選手・コーチ13名）を講師として招聘し実施した。 ① 陸上部紹介 森下監督をはじめとして、各選手・コーチの紹介を行った。視覚に障がいがあり、見えづらさのある幼児児童生徒のために一人ずつ自己紹介をしていただき、声を聞かせてもらうようにした。



森下広一監督

石本孝幸コーチ



阿部祐樹コーチ

大津頭杜選手

今井正人選手



押川裕貴選手

奥野翔弥選手

渡邊大輔選手



坂本大志選手

今井篤弥選手

江田悠真選手



中平大二朗選手

改木悠真選手

② 森下広一監督の講話

バルセロナオリンピック男子マラソン銀メダリストである森下監督より、陸上を始めたきっかけや実業団での監督としてのエピソード、マラソンを始めるに至った経緯とオリンピックのこと、これまでの競技生活で一番がんばったことなどをお話しいただいた。



③持久走大会

○準備体操

坂本選手の説明に合わせて全員で準備体操を行った。



○小学部 15 分間走





○中学部 20 分間走



③ デモンストレーション

競技終了後、大津頭杜選手によるグラウンド一周のデモンストレーション。1 kmを3分のペースで走っていただいた。森下監督より「このペースでマラソンは走ります」「駅伝はもっと速いスピードで走らないと日本で4番にはなれません」との説明がなされると驚嘆の声がもれた。幼児児童生徒は、足音や一周を走ってくる時間の速さを肌で感じる事ができた。



④ アイシェードをつけてのランニングと伴走の体験

選手にアイシェードをつけていただき、見えない状態でのランニングとその伴走の体験していただいた。

選手からは、「見えないと怖くて腰が引ける」「相手をどれだけ信頼できるかがとても重要」などの感想を聞くことができた。



⑤ 記念撮影



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックである森下監督の講話を聞き、「妥協しない心」「進んで苦手なことに挑戦すること」「こつこつと積み重ねていくこと」の大切さを学ぶことができた。 ・幼児児童生徒は、一人ひとり、監督やコーチ、選手の皆さんに伴走してもらいたくさんの励ましを受けたことで、個々の目標達成のために精一杯力を発揮することができた。また、最後まであきらめずに走りきることで、達成感を味わうことができた。 ・次の日の朝刊に、写真と共に記事が掲載された。オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進事業の実践を地域に紹介することができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トヨタ九州陸上部のテーマである「闘走走覇」をデザインした応援の小旗を手作りし、それを振って応援することで、大会の雰囲気演出することができた。 ・選手の皆さんにアイシェードをつけてもらい、見えない状態で実際に走ってもらったことで、伴走時にどのような点に気がつけたらよいのかということを感じてもらうことができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走大会の開催時期について検討する必要がある。 (休業明け直後の実施にならない方が望ましい) ・事前学習において、調べ学習等を取り入れて、講師(監督・コーチ・選手)のことを詳しく学習しておく必要がある。 (当日より充実した関わりのため)
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>今年度、トヨタ自動車九州陸上部を講師に招聘して行った持久走の取り組みについては、幼児児童生徒のオリンピックやパラリンピックに対する興味関心を高め、スポーツを楽しむ心を育む上で非常に有効であった。来年度以降も、継続して取り組んでいきたいと考えている。また、他校の実践を参考にしながら、本校の幼児児童生徒の実態に応じた取り組みも検討していきたい。</p>